

平成18年9月15日

日本学術振興会  
プロセスシステム工学第143委員会  
委員長 長谷部 伸治

プロセスシステム工学第143委員会  
第159回委員会・平成18年度第3回研究会 開催通知  
(143委員会ホームページ <http://www.pse143.org/>)

1. 日 時：2006年10月13日(金) 13:00～17:00
2. 場 所：弘済会館 (東京都千代田区麹町5-1 / 電話：03-5276-0333)  
(交通：JR中央線・地下鉄丸の内線「四ッ谷駅」下車徒歩3分)
3. 委員会：(13:00～13:10)
4. 研究会：(13:10～17:00)

テーマ：統合学のすすめ ―複雑な問題の解決に向けて―

13:10-14:20 「統合学の狙い」

東京工業大学 仲 勇治 委員

<概要>社会技術や生産業の内外に複雑な問題が山積みになっている。技術と制度の関係においてもズレが目につくようになってきた。しかし、これらの問題は必ずしも明確に特定されていないことも多々あり、従って解決していく糸口が様々な視点から提案されるのが通常である。これらの解決へのアプローチを素早く評価する仕組みが必要になっている。この考え方を支援するために如何なるエンジニアリング環境を構築すべきか、構築するために何が必要かを解説する。

14:20-15:00 「プロセス産業における統合化の必要性」

東京工業大学 淵野 哲郎 委員

<概要>プロセス産業では、設備、運転、生産、安全、品質、環境等の管理を必要とし、それらの間での不整合は、漏洩、火災、爆発、環境影響、品質異常といった形で顕在化する。不整合を顕在化する前に取り除くためには、各管理業務下で行われる計画・実行を、管理業務間で評価し見直すための明示的な仕組み(統合環境)が必要である。ここでは、事例を交えて、統合環境の必要性とその構築に向けた課題について考える。

15:00-15:20 (休憩)

15:20-16:10 「製薬企業におけるSCMとアウトソーシング」

クオリカプス(株) 澤野 研 氏

<概要>製薬企業では、部門間の情報共有により、商流・物流の効率化を図るSCMが導入されている。競争力を維持するため、新薬開発能力をコアコンピタンスとするビジネスモデルに基づき、新薬開発に経営資源を集中するために、新薬開発以外の部分をアウトソーシングする可能性を探っている。しかし、単純なアウトソーシングは、さまざまな不都合を生じる。垂直統合によらない、バーチャルなビジネスモデルでの最適化を図るには、SCMの経験を統合化技術により、バリューチェーン全体に展開し、「見える化」を推進し、円滑なコミュニケーションを可能にすることで最適化を目指す。本講演では、事例に基づき統合学の取組みを論ずる。

16:10-17:00 総合討論